編集後記

○気候がよくなると、戸外は幼児の最も良い遊び場である。新鮮な空気と、明るい日光を浴びよう。七月号は、幼児と戸外生活を考えて編集した。夏に向うに従つて、子供の戸外遊びには、保健衛生上考慮すべきことも少くないが、夏ならでは味い得ない夏の自然の喜びと楽しみを出来るだけ子供達に経験させたいものである。幼ない時に自然の事物から感得した心は、成長した後にも豊かに思い出されよう。小さい頃の楽しい思い出は、私達に豊かな心の源を提供すなく、小さい頃の経験の[illegible]かい[illegible]き易くもあり、又[illegible]に対[illegible]敏感でもある。豊かにふ[illegible]ますこと[illegible]出来るし、ひねくれていじけさすこ[illegible]出来る。子供の[illegible]を豊かにしよう。子供の周囲を豊かにしよう。温たかい心で満し、美くしく健[illegible]かな自然の中で育てよう。時には剛健な強い自然にも触れさせよう。心は柔らかくなければならないが、又強さも必要である。私達の幼児教育には、人工のわざ以上の自然のわざが必然である。

○今月号に掲載することの出来た座談会は、日本保育学会の大規模な研究の一部をめぐるものである。研究首班である山下俊郎先生及び諸先生方、並びに極めて手数のかゝる面接という仕事に携さわれた学生諸氏の貴重な御感想は、誠に興味深い。此処に掲げたものは、研究途上の一つの苦労を供すものにすぎないが、本研究の中間報告は、本年度の日本保育学会において報告され、更に本誌の[illegible]その一部が発表される筈である。此の調査は更に日本全国の農村にもひろげられるとのこと、やがて今までにない貴重な資料となるであろう。

○前月号松原至大先生訳『この子供たち』(16)は(10)が正。同四七頁七行目、「私たちを」の次は「こうして」が正。

幼児の教育　第五三巻　第七号
定価金五十円

昭和二十九年六月二十五日印刷
昭和二十九年七月一日発行

東京都中野区千光前町一〇
編集兼発行者　倉橋惣三

東京都文京区大塚町三十五
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所　日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地
印刷所　凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五
発売所　株式会社　フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

○本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願い致します。